

新林学区



データファイル

- 人口 8,944人
 - 世帯数 3,431世帯
 - 面積 1.999km²
- *平成17年国勢調査(10月1日現在)



いきいきほのぼの新林

歴史をたどれば、後期石器時代には人が住み狩猟生活が行われていた地、平安時代には朝廷人が鷹狩りをし歌を詠んだ地、江戸元禄の頃より新田開墾で定住が始まった地。

向日町丘陵の竹藪を抜けると、急峻な西山まではなだらかな地形が続く。田畑・竹林が小畑川を挟んで点在し、春はたけのこ、秋は柿がたわわに実る、いわゆるのどかな里の風景が広がっていた大枝・大原野の地に昭和42年洛西ニュータウン住宅団地の計画が発表され、47年夏工事が始まり、51年秋から入居者を迎え、旧在の町と新しい町とで新林学区が発足しました。

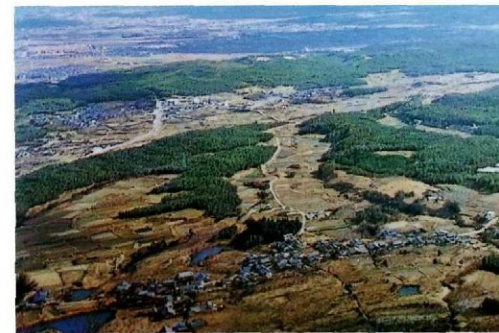
まずは、街づくりということで、52年10月「伝統ある地に新しい故郷づくり」をスローガンに新林学区自治連合会が結成され、人々の交流を深めるために、育友会等の呼び掛けで、自治連合会主催の体育祭が開催されました。そして、より明るく住み良い環境をと各種団体も次々と組織され、積極的に参加される人も増え活動の場も広がりました。

昭和52年4月新林小学校が開校し、入居者が増えるに伴い58年には児童数1,385名になりました。

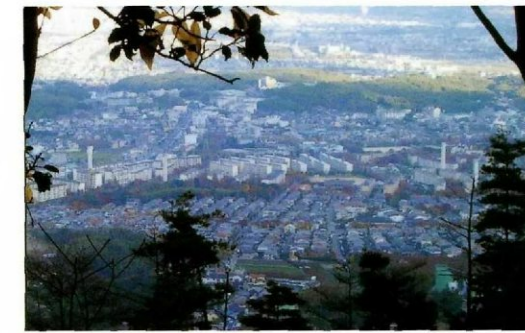
また、昭和55年4月には、市立芸術大学が芸術の総合大学としてこの地に移転され地域は活気にあふれていました。

20周年を迎える頃より、高齢者も目立つようになり、組織に縛られない自由な生き方（自治会離れ）もあり、いろんな活動にも支障をきたすようになって来ました。学区30周年を控え「いきいきほのぼの新林」をスローガンに活力ある諸活動を展開しています。そして、「新林ちょぼらの会」を立ち上げるなど人の繋がりを大切にしたいあたたかい街づくりを目指しています。

また、高齢者の方々にもひきこもっておくにならず、今までの豊富な経験を語り合い生かしていただける機会を模索し、若い方々にもぜひずっと住み続けていただき、地域コミュニティの活性化とより良い発展を遂げ、水（小畑川）にホタルも帰って来ました）と緑に囲まれた新林が「ベッドタウン」から「ホームタウン」に、そして、誰もが「故郷」と呼べるように。



昭和40年頃の風景



西山からの街並み



西新林一丁目北部から新林池公園 工事中（昭和52年5月頃）



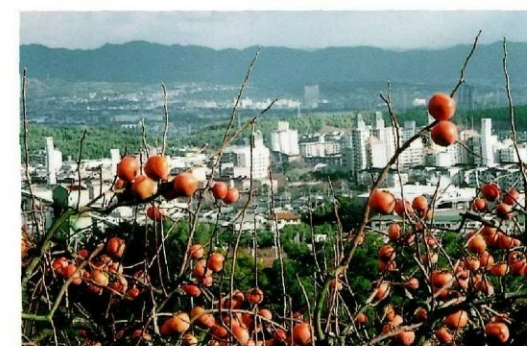
西新林一丁目北部から新林池公園 街並み（昭和62年9月頃）



桜の洛西ニュータウン



新林本通境谷交差点付近の街並み



柿畑から望む洛西ニュータウン



小畑川